

第185回 友の会 比良山麓 自然観察会 ～10は覚えられる樹木の名前～

日時：2020年10月25日（日）

場所：比良駅からイン谷口

天候：快晴

参加者：一般31名（内子供2名） スタッフ25名 合計56名

今回の友の会は会員限定の（十本の樹木を覚える）というテーマで開催しました。

コースは琵琶湖岸の標高約90mからスタートし比良連峰の最高峰「武奈ヶ岳」に向かう登山口の標高約300mまでの谷沿いを歩くルートです、歩き始めは田園地帯を進み、標高100mの樹下神社から先は別荘の建ち並ぶ林の中を歩き、標高180m付近で湖西道路を横断、本格的な山道を歩きます。標高250m付近でバス道に合流しあと少しで今日の最高点である標高約300mまでは舗装された道を歩いての観察となります。このようにほぼ山頂に向かってどんどん標高が増すコースですから、スタート地点と終点では200m以上の標高差があり、これに伴い植物の成長の度合いも異なり、標高が上につれ季節が戻るような感覚になります。具体的な例ではほとんど枯れていたリョウブの花穂が、終点付近ではまだしっかりとした形をとどめていたり、紅葉の度合いが上につれ進んでくるなど、何度でも訪れたいエリアです。春に訪れたときはウミズミザクラの花がスタート地点では終わりかけていましたが、終点付近では満開状態で大変感激しました。

さて、今回の観察会では樹木の名前を覚えることがテーマですから、葉の形や表裏の性質、葉序、鋸歯、さらに、樹高や枝の張り方等多岐にわたり自分の目で見て種名を決める（同定）という、今まで以上に詳しい観察会です。私たち指導員は下見でより詳しく観察したつもりでしたが同じ樹木を見て、観察ポイントを説明するとなると大変むつかしくどれだけ皆さんに伝わったのか……。ともあれ、より詳しい観察会ということで、可能な限り正確な用語を使い、見て、触って、嗅いでもらって十本の樹木が区別してもらえる（特徴をつかんでもらえる）ようにしながら終点のイン谷口を目指しました。



秋晴れの気持ちいい観察会



比良駅で今日の資料をもらい点呼



スタジイの説明をみんなで聞きました

スダジイをつかんでもらえる（特徴をつかんでもらえる）ようにしながら終点のイン谷口を目指しました。

スタート地点から湖西道路

J R比良駅前にて点呼、久々の大人数の友の会でした。駅から約 700m 先の樹下神社のスタジイの説明を全員で聞いて、この後 4 班に分かれてスタートです。神社横の藪にツタウルシが上っており危険な種として紹介、コバノミツバツツジ、タムシバ、同定の難しかったツクバネガシ（アカガシと思われたが、歯の先端付近に鋸歯の存在が認められツクバネガシ、あるいはアカガシとの雑種であるオオツクバネガシかも）、赤い実をつけたコバノガマズミ（実の数の多いガマズミも見られた）倒木から新たな枝を伸ばした複葉のハネミイヌエンジュ、下見の時はまだ蕾状態のコウヤボウキがほぼ満開で足元を楽しませてくれました。

湖西道路まで来ると振り返れば琵琶湖の湖面が遠くに見える 150m の高さを感じさせます。

湖西道路からバス道出合い

ごつごつした山道を上を見て観察、大変歩きにくい道です。あちらこちらにカキノキが実をつけています、花のない時のウワミズザクラの見分け方は木肌がモールス信号のように見え、枝に小枝を落とした時の特徴としてコブコブが見られること。小葉が 3 枚のタカノツメ、5 枚のコシアブラ（春先に食べた味を思い出し、ここはたくさん採れそうです）、バス道の手前では、イヌシデの葉の毛を虫眼鏡で見たり手触りを確認し、ここで昼食です。

バス道出合いから終点まで



子供たちの作品



お店屋さんの開店です



少人数に分かれて観察です



ヨメナ



アキノキリンソウ

目の前のやたら大きな葉のフサザクラ、よく見ると尾状葉で重鋸歯を持つ特徴的な葉が短枝についています、ところどころに今年の果実が残っていました。葉芽と花芽のしっかりとしたクロモジ言わずと知れた高級爪楊枝の材料です。とてつもなく大木化したアカメガシワがあり、道端でよく観察するあのアカメガシワがこんなに！と思わせる大きさです、ムラサキシキブと同じく葉の形のままの新芽、裸芽を持っています。枝がコキコキと曲がって伸びるエゴノキは 2 年枝の表皮がはがれる特徴を持っています。玉すだれの実をつけたキブシや幹が筋肉のムキムキと表現されるアカシデ、より葉の大きいクマシデ、葉の変異の多いウリカエデなど盛りだくさんの観察会です。イン谷口では、クロモジ茶を味わっていただきました、時間がたつと赤褐色に色づき、香りとともに味わえ、ほっとするひと時でした。

今回樹木中心で案内したため、草本についてはほとんど飛ばして進みましたが、メナモミなどの草本については店開きで紹介いたしました。

上月

下見の時にはつぼみ状態であったコウヤボウキが見ごろを迎えており、メナモミも花をつけており見るものがふんだんにあった観察会でした。



コウヤボウキ



メナモミ



ウリカエデ



マツカゼソウ



クロモジ



シロモジ



遊びの天才



フサザクラを観察



カマキリの仲間



香りのよいクロモジ茶を楽しみました



子供たちの作品



オオバヤシャブシ



ヤマハゼ



アラカシ